**[16pt] タイトル―副題―**

[12pt] 第一著者氏名\* 第二著者氏名\*\*

*[10pt] \*第一著者の所属*

*email@address*

*\*\*第二著者の所属*

*email@address*

[10pt] **要旨**

研究概要を400字以内で記すこと。

 **キーワード**：5個以内

1. **はじめに**

　本テンプレートは*The JACET International Convention Proceedings*のために作成されたものである。PDF形式で保存したデータを提出すること。原則として、編集委員会は提出された原稿に変更を加えない。**締め切りは2021年6月14日（月）23時59分59秒（日本時間）である。**いかなる理由であれ、締め切りを過ぎて提出された原稿は受理されない。

1. **原稿の形式**

　*The JACET International Convention Proceedings*は、The JACET 60th Commemorative International Convention (Online, 2021) の予稿集（査読なし）である。電子版のみを発行する。

* 1. 形式

本テンプレートを使用すること。A4サイズ（上下左右15mmの余白）で、文章は両端揃え。ページ番号は挿入しない。本文は2段組とする。

* 1. フォント

和文は「MS明朝」、英文は「Times New Roman」とし、文字の大きさは以下の表1の通りとする。なお、参考文献を除き、本文の（　　）は全角で統一する。

**[9pt] 表1**

*文字の大きさ*

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Font Size | Style | Text |
| 16pt | 太字 | タイトル（最大3行、中央揃え）  |
| 12pt |  | 著者名 |
| 10pt | イタリック | 著者の所属、メールアドレス |
| 10pt | 太字 | セクション見出し |
| 10pt |  | 要旨、本文、小見出し |
| 9pt | イタリック | 図表タイトル |
| 9pt |  | 図表、注、謝辞、参考文献、付録 |

*注.* 必要であれば、ここに注を設けること。

1. **図表**

　図表のタイトルは該当する図表の上に記すこと（APAマニュアル第7版参照）。本文中で先に言及した図表のみを掲載する。図表に関しては、多色カラーでもよい。

**[9pt]** **図1**

*図のサンプル*



*注.* 必要であれば、ここに注を設けること。

1. **問い合わせ**

　このテンプレートで解決しない疑問点に関しては、**jacet60thproceedings@jacet.org**に連絡すること。質問内容によっては、返答に時間がかかることがある。

**[9pt] 注**

1必要であれば、ここに注を設けること。

2 . . .

**謝辞**

　謝辞を含める場合は、注と参考文献の間に記すこと。

**参考文献**

　参考文献は、**日本語、英語で区分けせず、混合のアルファベット順で記載し**、APAマニュアル**第7版**に従い、たとえば以下のように記すこと。（以下では便宜上「著書」や「論文」などのカテゴリーに分けているが、実際にはこのようなカテゴリー分けをする必要はない。）

**（著書）**

American Psychological Association. (2019). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.). American Psychological Association.

Huston, A. C., Wartella, E., Donnerstein, E., Scantlin, R., & Kotler, J. (1998). *Measuring the effects of sexual content in the media: A report to the Kaiser Family Foundation.* The Kaiser Family Foundation.

Karmiloff-Smith, A. (1992). *Beyond modularity: A developmental perspective on cognitive science.* MIT Press.

田地野彰. (2011).『＜意味順＞英作文のすすめ』. 岩波書店.

**（編著書）**

Duck, S. (Ed.). (1988). *Handbook of personal relationships: Theory, research, and interventions*. Wiley.

松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター (編). (2015).『ディープ・アクティブ・ラーニング―大学授業を深化させるために』. 勁草書房.

**（論文）**

Benson, P. (2006). Autonomy in language teaching and learning. *Language Teaching, 40*(1), 20–40. [https://doi.org/10.1017/S0261444806003958](https://doi.org/10.1017/S0261444806003958%22%20%5Ct%20%22_blank)

Galloway, N., & Rose, H. (in press). English medium instruction and the English language practitioner. *ELT Journal.* Advance online publication. <https://doi.org/10.1093/elt/ccaa063>

関田一彦・安永悟. (2005).「協同学習の定義と関連用語の整理」.『協同と教育』, 1, 10–17.

**（ブックチャプター）**

Berndt, T. J., & Savin-Williams, R. C. (1993). Peer relations and friendships. In P. H. Tolan, & B. J. Kohler (Eds.), *Handbook of clinical research and practice with adolescents* (pp. 203–219). Wiley.

溝上慎一. (2015).「アクティブラーニング論から見たディープ・アクティブラーニング」. 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター (編).『ディープ・アクティブ・ラーニング―大学授業を深化させるために』(pp. 31–51). 勁草書房.

Reis, H. T., & Shaver, P. (1988). Intimacy as an interpersonal process. In S. Duck (Ed.), *Handbook of personal relationships: Theory, research, and interventions* (pp. 367–389). Wiley.

**付録A. タイトル**

必要であれば、ここに付録を設けること。

**付録B. タイトル**

必要であれば、ここに付録を設けること。